60

大江雲澤と合水堂

川嶌眞人
川嶌整形外科病院

世界で初めてマンダラゲを主成分とする「通仙散」を使用して全身麻酔を行い、乳癌の手術に成功した華岡青洲のことは本学会でも多くの報告がある。中津市、鷹匠町の大江医家史料館には五代目の大江雲澤（一八二二～一八九九）が華岡塾の大坂分塾（合水堂）で学んだ史料が色々残っていて興味深い。

華岡塾卒業の証拠として与えられた青洲の画像には青洲の漢詩が記載されている。現物はかすれて判読できなかったが、他の画像史料や華岡青洲墓地横の石碑の記録などから「医師は毎日患者が苦しみや痛みからいかに解放されるかに心を砕き、如何にして不知の病を治すかということに心を集中すべきで、経済的なことに煩わされてはいけない。」という趣旨のことが漢詩として書かれてあったことが判明した。

雲澤は文政五年（一八二二）十二月八日に出生、範治、達義とも呼ばれた。天保十二年（一八四一）、華岡医塾の大坂分塾である合水堂に入門した。合水堂の創設者、華岡良平（鹿城）（一七七九～一八二七）は寛政元年（一七八九）十一歳の時に儒者熊野氏に学問の指導を受け、同八年（一七九六）十八歳のときに京都に遊学、文学を佐野山陰に、医学を吉益南涯に学んだ。文化元年（一八〇四）二十六歳の時に、平山の春林軒に戻り、兄の青洲に学び片腕として助けた。文化十二年（一八一六）三十八歳で大坂中之島の山崎に華岡分塾「合水堂」を開き、患者は門前市をなした。正妻の於雪に子がなかったが庶子に四男二女があった。四男の良平（又平、積軒）（一八二七～一八七二）は生まれた年に父鹿城を失い、従兄の準平の許で育てられた。資性重厚で医師としての信望を集め、名声が高かった。良平の前妻の千代は準平の次女、後妻清も準平の娘であった。

華岡準平（一七九七～一八六五）青洲の娘、かめの婿、名は興、字は士諫、南洋、幼名は仙五郎、那賀郡

上野村、安楽川の郷士、奥杢之助の弟二十四歳で青洲門下生、養子となり青洲の娘、長女のかめの婿となった。内科を吉益北洲、産科を奥劣斎に学ぶ後に平山に帰り青洲を助けた。四十二歳で大坂の分塾、合水堂の鹿城の遺児、康平（良平）を守り立てた。資性温厚で気概にも富み、武技も好んだ。

中津の大江雲澤は準平に学び、その後も華岡家と交流したことが大江家の手紙の存在から判明した。手紙は三通存在している。

華岡準平から雲澤の父、大江玄明宛の手紙

隠居を残念に思うという主旨

華岡準平から大江義達（雲澤）宛の手紙

年頭の挨拶と鶏一羽のお礼

華岡良平から大江雲澤宛の手紙

年頭の挨拶と養父準平の昨晩秋死去のしらせ

雲澤は「医は仁ならざるの術、務めて仁をなさんと欲す」と書き残している。